

「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」 放課後子供教室の取組事例

一体型を中心とした地域住民とつくる学びと交流活動（岩手県 洋野町）

取組の概要や経緯

平成19年度に策定した洋野町放課後子どもプランをベースとして、東日本大震災の教訓を踏まえた見直しを平成26年度に行い、現在の洋野町放課後子ども総合プランにより、子ども教室と児童クラブとの一体型を中心とした運営の整備を進めた。全ての児童が放課後等に、安全安心に過ごし、地域住民の参画を得た多様な体験、学びを実施することで、地域とのつながりと郷土愛の醸成で、持続可能な活動を推進している。

内容

学校の空き教室等を活用して放課後子ども教室を設け、地域の人たちを安全管理員として配置し種市地区の全小学校（4校）に設置している。その中で、教育振興運動と連携し「読書活動の推進」と「家庭学習の充実」を各教室に組み入れるほか、ものづくりなどの体験的活動や地域を知る活動など、学校・地域と一体となって、地域全体で放課後等の学び、体験の場を提供し、安全・安心な居場所づくりに取り組んでいる。特に、地域資源を活用した川遊びや浜下り体験、名所ウォークラリーや郷土芸能体験などの地域学は、子ども達の豊かな感性と郷土愛を育てている。

・一体型での実施校 3校（開催回数：角浜小60回、宿戸小50回、中野小60回） ・連携型での実施校 1校（種市小195回）



郷土芸能教室



浜下り体験



川遊び



地域の名所ウォークラリー

ポイント

各学校に配置している地域コーディネーターと教育委員会に配置している放課後子ども教室コーディネーターが連携し、毎月、安全管理員（地域住民）との打合せ会を実施している。

企画段階からの参画を得ることで、関わる地域の大人の多様な経験と知識を生かした活動につながっている。

成果

・勉強場所の確保という目的だけではなく、地域の大人を安全管理員として配置していることで、子ども達が地域の昔遊びや方言なども学び、自らの地域を知り、良さに気づくことができ、地域の宝（海や山の自然や史跡など）を感じることで郷土愛の醸成につながっている。

・「地域の子どもは地域で守る」という考えで実施することで、大学生から母親世代、祖父母世代までの幅広い年代が参画し、世代間交流の場になっている。

＜子ども教室参加者数＞ ※H29.4～11月末まで ()内は昨年度実績

開設学校名	教室名	児童数	延べ参加児童数	延べ安全管理員数
種市小学校	ダイちゃんの家	210人 (212人)	3,349人 (3,518人)	569人 (567人)
角浜小学校	角浜フレンドパーク	33人 (33人)	615人 (677人)	161人 (146人)
宿戸小学校	わくわく広場	84人 (96人)	990人 (986人)	119人 (111人)
中野小学校	わんぱく中野塾	91人 (94人)	796人 (1,169人)	147人 (230人)
参加者合計		418人 (435人)	5,750人 (6,350人)	996人 (1,054人)



今後の方向性

- ・地域との連携を引き続き推進し、安全管理員やボランティアの安定的な確保を図る。
- ・登録いただいた安全管理員等を各種研修会に積極的に参加させることで個人と教室全体のスキル向上を図り、安定的に運営できる体制づくりを図る。
- ・放課後子ども教室コーディネーターの定着に苦慮していることから、安定的な人材確保を図る。